

群馬県立前橋高等特別支援学校 学校評価一覽表(令和5年度版)

(様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①ホームページの運用及び学校からの情報伝達手段等において、「工夫されている」と感じる保護者が80%以上である。	教務部	○ホームページの点検、推進を各部の主事・主任と協力して行う。 ○各部からのお便りの発行については、分掌内で組織的に点検や工夫することで充実を図る。 ○中学校向けの「前高特ガイド」を、入学者選抜関連に限定せず、「特別支援教育全般」に関する内容に整備し直す。						
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	②学校の活動紹介を保護者や地域、関係機関に年5回以上回覧している。	支援推進部	○本校で配付される各種通信の一部を盛り込み、地域の回覧板やホームページのブログを作成し、生徒の活動の様子をお知らせする。						
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	③センター的機能の役割を果たしていると感じている高等学校等の関係者が、80%以上である。	支援推進部	○関係機関へのアンケートを実施し、ニーズを把握しながら情報提供ができるようにする。 ○相談業務とともに地域支援だよりの発行や特別支援教育ニュースをホームページに掲載し、障害のある幼児児童生徒への教育活動を啓発する。						
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	④「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の目標が、個々の特性や課題に即していると感じている保護者が80%以上である。	各学年	○授業や実習などの学校生活について、面談で保護者にていねいに説明を行ったり、家庭の様子や本人・保護者の希望を聞いたりして、保護者と共通理解を図り、目標や手立てについて考える。						
		⑤タブレットを授業で活用したことにより、情報活用能力が高まったと感じている保護者が80%以上いる。	学習指導係	○アプリを用いるなどして、各教科でタブレットを活用した取り組みをさらに進める。 ○教師相互の授業参観の実施や、校内研修により、情報教育力の向上に努め、活用の幅を広げる。						
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑥作業学習のチームティーチングで各教員が作業スキルを高め、指導内容の確実な定着を図る授業が行われていると感じる教師が80%以上いる。	研修係	○チームティーチングを行う教員のスキルアップを目的とした、校内研修で作業学習体験講習会を企画する。それにより教師間の連携、一貫した指導ができるようにする。						
		⑦就労に必要な態度や作業能力が身につけていると感じている保護者が80%以上いる。	進路係	○担任や授業担当者、各科の教師が、生徒の実態や就労希望等について情報共有を行い、個々の生徒に必要な力や目標について共通理解をもって指導を行う。						
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑧生徒の発達段階や課題を考慮した性に関する指導について、80%以上の保護者から理解や協力を得ている。	保健部	○性講演会に保護者への参観希望を募るとともに、参観希望調査で参観の有無を問わず保護者が求める性指導について意向を伺い、ニーズに応える。 ○アンケート調査等をし、生徒が求める「知りたいこと」に応える。 ○保健だより等を通して保護者へ情報提供をする。						
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑨年3回の避難訓練で、教職員の避難誘導が実際の場面に即した態勢になっていると、関係機関の方から80%以上の評価を得ることができる。	防火防災係	○現実に即した教職員の避難誘導や態勢ができるよう避難訓練を行う。 ○避難訓練の様子を関係機関の方に評価してもらい、指導・助言を得る機会をもち、教職員の素早い動きができるようにする。 ○防災用具を計画的に整備する。						
	8 年間を通じて、計画的な生活・安全指導を行っていますか。	⑩学校全体で取り組んでいる「いじめ防止活動」が実際にいじめ防止に繋がっていると感じられる保護者が80%以上である。	生徒指導部	○生徒に配慮しながら個別アンケートを実施し、現状把握に努める。 ○いじめ防止対策に関する研修を教師に行い、意識や知見を高める。 ○人間関係作りの活動を生徒が主体的に行えるよう工夫して実施し、いじめ防止に役立てる。						
	9 生徒の安全確保の観点から施設・設備を管理していますか。	⑪学校の施設設備が、安全面で配慮されていると感じられる保護者が80%以上である。	事務部	○巡回により危険箇所を早期に発見し、対応する。 ○安全点検結果を担当者間で情報共有し、修繕等の対応を迅速に行う。						
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	10 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑫社会生活に必要な資質や能力、言動などが段階的に身につけていると感じる保護者が80%以上である。	各学年	○生徒の実態把握とその分析に努め、学習内容の充実を図る。 ○教科学習や作業学習、学校行事、校外学習、産業現場等における実習を通して実践し、活用力を高める。						
	11 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑬計画的な職業教育、就業体験実習、進路相談を行い、段階に応じて進路実現が可能だと感じている生徒・保護者が80%以上である。	進路指導部	○校内実習や就業体験実習を工夫改善に努める。 ○外部講師による「進路ガイダンス」「職業教育充実研修」を行う。 ○事業所、福祉施設見学会を企画し実施する。 ○企業採用担当者学校見学会を実施する。 ○個別面談で保護者との共通理解を図る。 ○移行支援連絡会議で関係機関との連携を図る。						